3　教育に関連する取組

平成 30 年 (2018) 告示の高等学校学習指導要領（「歴史総合」及び「日本史探究」）において、博物館や図書館に加え、新たに「公文書館」が連携機関として明記され、学校教育での公文書館（文書館）の活用等が求められるようになった。

これを契機として、当館では令和元年 (2019) 度以降、県内の学校との連携を一層強化し、学校所蔵資料の調査及びデジタル化による公開、高等学校との共催による歴史講座の開催、教員を対象とした講演・見学会等を行ってきた。

さらに、令和５年度には、和歌山県歴史資料アーカイブ内に「授業で使える和歌山の資料」と題したウェブページを開設し、当館が所蔵する古文書等の歴史資料を学校の授業等で活用してもらうための取組を進めている。

なお、当館では、開館時より教育委員会からの出向者が在籍し、担当業務と並行して学校との連携や所蔵資料の教育活用にも取り組んでいる。

近年における教育に関連する各取組の詳しい内容は以下のとおりである。

（１）学校所蔵資料の調査及びデジタル化による公開

学校には、地域の人々から寄贈された書籍や古文書、学校が作成した文書など様々な資料が残されている。しかし近年では、自然災害や学校の再編等によって、学校に残された資料が被災したり廃棄されたりするケースが全国各地でみられる。

和歌山県においても、平成 23 年９月の紀伊半島大水害により、学校に保管されていた資料が被災した事例がある。こうした資料の散逸・消滅を防ぎ、学校・地域のあゆみやつながり等を示す歴史資料として適切に保存・活用していくことが求められている。

令和元年度、当館では、学校所蔵資料等の所在状況を把握し、デジタル化を含めた保存・活用を図ることを目的に、県内の公立高等学校・市町村教育委員会等を対象とした「歴史資料の収集に係る調査」（アンケート調査）を実施した。その結果、公立高等学校では、回答のあった 31 校のうち、18 校が「歴史資料」を保存していることが明らかとなった。現在、その中から下記２校の学校所蔵資料をデジタル化し、和歌山県歴史資料アーカイブで公開している。

また、県内では、校内に資料室を設置し、学校自ら所蔵資料を保存・活用しようとする事例もみられる。当館では、県内の各学校に対し、必要に応じて専門職員による訪問調査や資料保存に関する助言等を行っている。

ア　県立耐久高校所蔵「耐久梧陵文庫」（令和２年 11 月公開）

「耐久梧陵文庫」は、県立耐久高校に受け継がれてきた江戸時代から明治時代の版本を中心とする約3,400点の書籍の総称である。同校は、嘉永５年(1852)に濱口梧陵（1820～1885）らが有田郡広村（現広川町広）に設立した「稽古場」（慶応２年(1866)に「耐久社」と命名）に源流をもつ伝統校である。

写真１　耐久高校での資料整理のようす
（平成 28 年８月７日）

資料の多くは地域の有志らが学校に寄贈したものであ

り、中でも、明治時代に活躍した実業家・政治家で、耐久学舎の舎長も務めた濱口容所（東濱口家第９代吉右衛門、1862 ～ 1913）の旧蔵書が大部分を占める。

これらの資料は、長年校内で保管されてきたが、同校から当館への相談をきっかけに調査が始まり、平成 28 年度より和歌山大学の教員及び学生、耐久高校の同窓会員・教職員・生徒、当館職員らによって整理作業が行われ、全点の目録が完成した（写真１）。整理作業後、資料は津波や洪水等による浸水被害の可能性が低い校舎３階の一室で保管されている。また、平成 27 年度に同校内に設置された校史資料室「耐久史学館」において一部を展示するなど活用が図られている（写真２）。

和歌山県歴史資料アーカイブでは、このうち 22 点（959 画像）を公開している（写真３）。

写真２　耐久史学館

写真３「耐久梧陵文庫」のうち『落葉の錦　上』

イ　県立串本古座高校所蔵「中根文庫」（令和３年３月公開）

「中根文庫」は、明治から昭和時代にかけて活躍した郷土史家、中根七郎（1871 ～ 1957）が筆写･収集した 201 点（うち８点欠）の文献資料である。昭和 28 年(1953)､同 43 年(1968)の２回にわたり県立古座高校に寄贈された。平成 22 年に県立古座高校と県立串本高校が統合し、県立串本古座高校となったため、現在は同校内で保管されている。

これらの資料は、中根が『紀伊東牟婁郡誌』（大正６年 (1917) 刊）編さんをきっかけに収集を開始したもので、旧紀州藩領（現在の三重県を含む）の歴史・文化・宗教・災害・動植物等に関する幅広い郷土資料が含まれている。このうち 125 点は中根自身による書写で、天災等で原本が失われたため、中根文庫の筆写本でのみ内容を知ることができるものもあり、紀南地域の歴史を知る上で重要な資料である（写真４）。

和歌山県歴史資料アーカイブでは､このうち 156 点 (9,906 画像) を公開している (写真５)。

写真４　「中根文庫」のうち災害関係資料

写真５　「中根文庫」のうち『新宮武鑑』

（2）「授業で使える和歌山の資料」のインターネット公開

ア　概要

前述のとおり、平成 30 年（2018）告示の学習指導要領において公文書館（文書館）の活用が明記され、歴史の授業において資料を活用した学習の充実がより一層求められるようになった。

授業で使える和歌山の資料

写真６　「授業で使える和歌山の資料」ページ

当館では、令和５年（2023）５月、和歌山県内に伝わる古文書等の歴史資料を学校の授業の教材として活用してもらうことを目的に、和歌山県歴史資料アーカイブ内に、「授業で使える和歌山の資料」と題した特設ページを開設した。当該ページでは、当館が所蔵する古文書等の中から、歴史の教科書に登場する事件や出来事に関連するものをピックアップし、資料のデジタル画像に解説シートを添えて公開している（写真６）。

解説シートは、教育委員会から出向している職員が実際の活用場面を想定しながら作成しており、資料の翻刻（ほんこく）（くずし字を活字に直したもの）・意訳・語句説明等のほか、歴史的背景や和歌山との関わりについて詳しく解説している。また、活用のポイントを明示するとともに、関連資料が掲載されているウェブサイト等のリンクを掲載することで、授業や教材研究で活用しやすいよう工夫している（写真７）。

身近な地域に伝わる歴史資料から、教科書の学習事項の一端を学ぶことができる内容としており、小学校・中学校・高等学校における歴史（日本史）、総合的な学習（探究）の時間等の授業、ふるさと学習のほか、一般の学習用としても幅広く活用が可能である。資料は今後、順次追加公開していく予定である（表１）。

表１　公開資料の例

（令和５年 11 月現在）

	タイトル	内容
1	キリシタン禁制 ―密告者には褒美を与える―	和歌山市大川に伝わった天和２年(1682)のキリシタン禁制の触書。
2	大塩の乱 ―粉河の旧家に残されていた大塩平八郎の人相書―	天保８年(1837)に起こった大塩の乱の首謀者を指名手配するための人相書の写し。
3	学制の布達 ―和歌山県における小学校教育のはじまり―	明治５年(1872)に発布された学制に関する和歌山県の布達。
4	地券 ―和歌山県における地租改正―	明治初年の地租改正に際して発行された和歌山県内の地券（改正地券）。
5	紀南の自由民権運動 ―幻の「田辺改進党」構想―	自由民権運動の高まりを受け、明治期に田辺で結成が目指された「田辺改進党」の団結趣意書。

イ　解説シートの構成

和歌山県立文書館「授業で使える和歌山の資料」

大塩の乱　―粉河の旧家に残されていた大塩平八郎の人相書―

1837(天保 8)年、大坂町奉行所の元与力で陽明学者の大塩平八郎は、貧民救済のため大坂（大阪）で挙兵しました。乱は半日で鎮圧されましたが、大塩が行方をくらましたため、幕府はただちに全国に指名手配しました。乱から 4 日後には、大塩ら首謀者七人の人相書が和歌山の村々にも伝わってきました。この古文書に記された内容を見ていきます。

1　資料

【資料】大塩平八郎の乱首謀者人相書（部分）

＊資料全体のデジタル画像を見る

【翻刻】

此度、大坂市中及乱妨、
奸賊大塩平八郎初メ七人
之者共、人相書差遣候
間、右似寄候者共見当り
候ハヽ、召捕置、其段早々
達出候様可申付候、以上
西山与七郎
二月廿三日
人相書
大塩平八郎
一　年頃四十五六才
一　顔細長ク色白キ方
一　眉毛細ク薄キ方
一　額開キ月代青キ方
一　鼻常体
一　耳常体
一　背格好中肉
一　其節之着用
一　鍬形附兜着用黒キ
陣羽織其余着用
不分

【意訳】

この度、大坂市中で乱妨におよんだ憎むべき悪人、大塩平八郎はじめ七人の者どもの人相書を送るので、右に似た者が見当たれば捕まえておき、そのことを速やかに報告するよう申しつけよ。以上。
西山与七郎
二月二十三日
人相書
大塩平八郎
一　年齢は四十五、六歳
一　顔は細長く色は白い方
一　眉毛は細く薄い方
一　額は広く月代は青い方
一　鼻は普通
一　耳は普通
一　背格好は中肉
その時の服装
一　鍬形付きの兜を着用し、黒い陣羽織を着用。その他は不明。

1

1　資料

【資料】
資料の画像を掲載している。リンクをクリックすると、資料全体及び分割した画像を見ることができ、自由にダウンロードすることが可能である。

【翻刻】
くずし字を活字に直して掲載している。

【意訳】
資料の内容を現代語で意訳している。

【語句・人名】
語句や人名について解説し、理解の一助としている。

【語句・人名】
・乱妨…暴力を用いて他人のものを理不尽に強奪すること。
・奸賊…心のねじけた者。憎むべき悪者。
・西山与七郎（1784～1852）…紀州藩の民政を担当した勘定奉行。
・人相書…犯罪者などを捜索、逮捕するために、その人の人相の特徴を記して配布するもの。
・月代…成人男子が前額部から頭上にかけて髪をそり上げたこと。また、その部分。
・鍬形…かぶとの前びさしの上に、角のように二本出ている金具。
・陣羽織…武士が戦場で具足の上に着用した上衣。

2　解説

（1）大塩の乱（1837）

1837(天保 8)年 2 月 19 日、大坂町奉行所の元与力で陽明学者の大塩平八郎（1793～1837）は、天保の飢饉（1833～1836）で飢えに苦しむ人々の救済を求め、幕政を批判する檄文を配布し、門弟らを率いて大坂市中で反乱を起こしました。大坂町奉行所の鎮圧により、反乱はわずか半日で収まりましたが、大塩自身は行方をくらましました。幕府は逃じした大塩ら首謀者の人相書を全国に配布し、厳しい捜索を行いました。大坂という重要な直轄都市で、幕府の元役人が主導して公然と武力で反乱を起こしたことは、幕府や諸藩に大きな衝撃を与えました。

（2）和歌山への事件の影響

紀州藩校学習館の教師の妻であった川合小梅の日記『小梅日記』によると、事件の情報は早くも翌日の 2 月 20 日には和歌山城下に伝わり、人々の噂にのぼっていたようです。

紀州藩は、2 月 22 日、領内に触れを出し、「大坂で悪党が騒動を起こしたので、鎮圧・逮捕しているが、近隣の諸国に逃亡する者もあるだろうから厳重に取り締まってほしい」としています。また、不審な者は捕え、反抗する者は逮捕・打ち殺してもよいとし、国境の警備を命じました。

（3）本資料について

この古文書は、1837(天保 8)年 2 月 23 日に紀州藩領内で触れ回された大塩平八郎を含む乱の首謀者 7 人の人相書の写しです。

人相書とは、江戸時代に罪人などを指名手配するため、身体などの特徴を文章で書き記したもので、似顔絵は付いていません。町や村の役人は、人相書が届くとそれを筆写して写しを手元に残し、届いた人相書を次の町や村へ送りました。

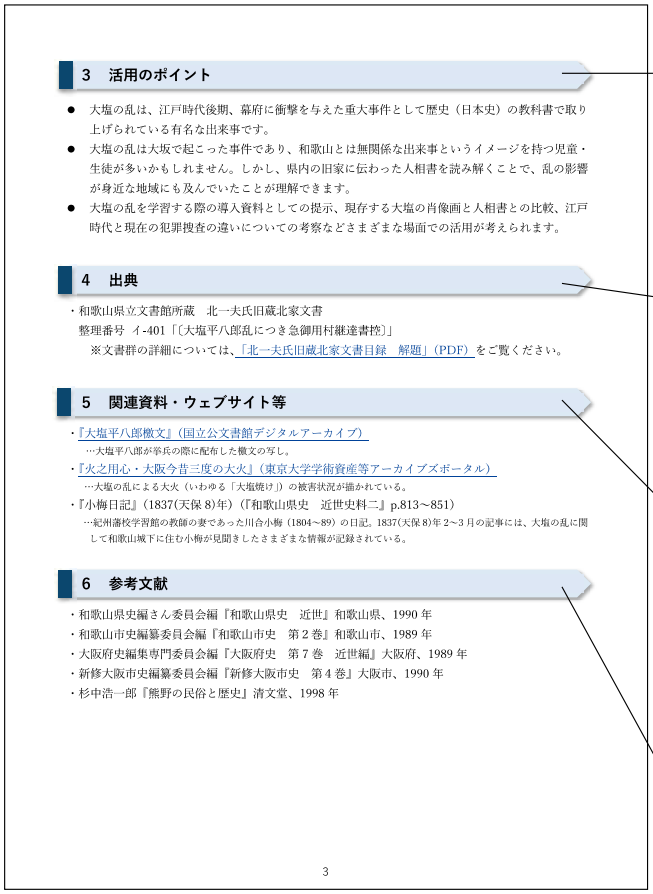
この人相書では、大塩平八郎の特徴を「年頃四十五、六歳」、「顔細長」、「眉毛細ク薄キ方」などと詳しく示すとともに、着衣の様子にも触れています。そのうえで、似た者を見かけた場合は、捕まえておき、速やかに藩に知らせるよう命じています。

結局のところ、大塩平八郎と養子の格之助は、乱から約 40 日後の 3 月 27 日、大坂市中の町屋に潜んでいたところを幕府方に包囲され、自害しました。

こうした大塩の人相書は、全国各地に残されていますが、大坂で起こった大事件の一報は和歌山にも伝わり、さまざまな影響が及んでいたことがわかります。

2　解説

解説は原則として、
　⑴資料に関する歴史的背景
　⑵和歌山との関わり
　⑶資料内容の説明
の３段構成としている。



3　活用のポイント

- 大塩の乱は、江戸時代後期、幕府に衝撃を与えた重大事件として歴史（日本史）の教科書で取り上げられている有名な出来事です。
- 大塩の乱は大坂で起こった事件であり、和歌山とは無関係な出来事というイメージを持つ児童・生徒が多いかもしれません。しかし、県内の旧家に伝わった人相書を読み解くことで、乱の影響が身近な地域にも及んでいたことが理解できます。
- 大塩の乱を学習する際の導入資料としての提示、現存する大塩の肖像画と人相書との比較、江戸時代と現在の犯罪捜査の違いについての考察などさまざまな場面での活用が考えられます。

4　出典

・和歌山県立文書館所蔵　北一夫氏旧蔵北家文書
整理番号　イ-401「〔大塩平八郎乱につき急御用村継達書控〕」
※文書群の詳細については、「北一夫氏旧蔵北家文書目録　解題」（PDF）をご覧ください。

5　関連資料・ウェブサイト等

・『大塩平八郎檄文』（国立公文書館デジタルアーカイブ）
…大塩平八郎が卒兵の際に配布した檄文の写し。
・『火之用心・大阪今昔三度の大火』（東京大学学術資産等アーカイブズポータル）
…大塩の乱による大火（いわゆる「大塩焼け」）の被害状況が描かれている。
・『小梅日記』（1837(天保 8)年）（『和歌山県史　近世史料二』p.813～851）
…紀州藩校学習館の教師の妻であった川合小梅（1804～89）の日記。1837(天保 8)年 2～3 月の記事には、大塩の乱に関して和歌山城下に住む小梅が見聞きしたさまざまな情報が記録されている。

6　参考文献

・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史　近世』和歌山県、1990 年
・和歌山市史編纂委員会編『和歌山市史　第 2 巻』和歌山市、1989 年
・大阪府史編集専門委員会編『大阪府史　第 7 巻　近世編』大阪府、1989 年
・新修大阪市史編纂委員会編『新修大阪市史　第 4 巻』大阪市、1990 年
・杉中浩一郎『熊野の民俗と歴史』清文堂、1998 年

3

写真７　解説シートの例

3　活用のポイント

教員向けに、授業で活用する際の切り口となる視点や資料の注目ポイントなどを紹介している。

4　出典

資料の出典（文書群名、資料番号等）を記載している。リンクをクリックすると、文書群の詳しい解説を PDF 形式で見ることができる。

5　関連資料・ウェブサイト等

取り上げた資料以外にも、関連する資料や参考となるデジタルアーカイブ・ウェブサイト等のリンクを掲載している。リンクから各サイトにアクセスできる。

6　参考文献

解説を作成する上で参考にした文献名を記載している。

（3）教員向け講座等

ア　県立串本古座高校との共催による歴史講座

串本古座高校「古座高校･古座校舎　百年の青春　はまゆう館」（資料室）の開設と同校所蔵「中根文庫」の当館によるデジタルアーカイブ公開を記念し、同文庫をはじめ地域に残る歴史資料の価値や教育活用をテーマに同校との共催による歴史講座を開催した（写真８、９）。当初は教職員向けの研修会として企画した講座であったが、地域の人々にも広く知ってもらうため一般公開することとし、当館職員３名が講演した。

【講座名】「百年の青春 はまゆう館」開設・「中根文庫」デジタルアーカイブ公開記念歴史講座
【開催日】令和３年(2021)12 月３日
【場　所】県立串本古座高校　視聴覚教室
【内　容】①砂川佳子 副主査「中根七郎と中根文庫―古座からはじまる郷土史研究―」
②玉置將人 副主査「学校に残る歴史資料の魅力と可能性」
③藤　隆宏 主任　「現在に伝えられた『災害の記憶』を未来につなげる」
＊終了後、希望者を対象に「百年の青春　はまゆう館」の見学会を実施
【受講者】46 人（串本古座高校教職員 18 人、一般参加者 28 人）

写真８　「百年の青春 はまゆう館」の展示風景

写真９　歴史講座のようす

イ　高校地理歴史・公民科教員向け講演

令和４年(2022) ５月、教科研究団体である和歌山県高等学校社会科研究協会の定期総会において、地理歴史・公民科教員を対象に、文書館及びデジタルアーカイブの教育活用をテーマに講演を行った。

【実施日】令和４年５月 17 日
【場　所】県立粉河高校　視聴覚教室
【演　題】「教育と文書館の仕事―文書館・デジタルアーカイブの教育活用に向けて―」
【講演者】宮下和己館長、玉置將人副主査
【受講者】県内高校地理歴史・公民科教員　27 人

ウ　高校地理歴史・公民科教員向け見学会

令和４年９月、所蔵資料を授業等で活用してもらうことを目的に、和歌山県高等学校社会科研究協会と連携し、同協会が主催する現地研修会を当館及び県立図書館において実施した（写真 10)。

【実施日】令和４年９月 30 日
【場　所】当館及び県立図書館
【内　容】施設の概要説明、収蔵庫等各施設の案内、所蔵資料の紹介、教員との意見交換等
【参加者】県内高校地理歴史・公民科教員　21 人

写真 10　古文書収蔵庫内での説明のようす